

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 10日

事業所名 らいふテラス豊中駅前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	個別を部屋の端でし集中出来る空間作り。	出来る限り広い空間を提供するために、整理整頓を徹底する。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	指導訓練室は床の段差をなくし運営している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎日集団活動や個別の内容の振り返りを終礼時に行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		保護者様からのご意見を大切に、ニーズにあった療育を提供していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	75%	25%		職員によっては、結果がどこに反映されているか知らない方もいるので、周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		現在、第三者外部評価を取り入れていないので、会社全体で検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	各指導員が苦手とする部分を明確にし、研修のテーマにしている。	現在多店舗とも合同研修を行っているが、より専門性の高い研修にしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		標準化したアセスメントシートを準備し、取り組んでいる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎日の終礼で全員で意見を出し、よりよい活動を提供できるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	日替わりで行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	長期休暇は児童の滞在時間が長いので、1人1人の時間を多くとっている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼、終礼時に毎日確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼時に毎日確認し共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	個別活動内容の記録もしている。	職員が全員の子供の現在の状況を把握するために、分かりやすく見やすい記録を作成することを検討する。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	75%	25%	定期的な研修を行い、児童に支援している。	全職員に周知するために、いつでも確認できる資料を作成し、可視化する。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している				対象児童なし。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	75%	25%		学校側との年間計画・行事予定までの共有を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				対象児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%		園等によっては情報共有できていないので、実地する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				対象児童なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	25%		コロナの兼ね合いがあり、連携をとっていなかったため、今後検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75%	25%		コロナの兼ね合いがあり、連携をとっていなかったため、今後検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%		コロナの兼ね合いがあり、連携をとっていなかったため、今後検討する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時に毎日保護者と共有している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	モニタリング時に助言させていただいている。	各保護者にあわせた支援を提供できるようにする。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者から相談があれば迅速に対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75%	25%		コロナが落ち着いてきたので、検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	グループのメールを作成して、スタッフの伝え忘れを防ぎ、共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNSを利用し紹介している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	各保護者によって、電話での対応、メールでの対応を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	25%		現在行っていないので、検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		職員間では周知しているが、保護者にはできていないので、今後周知していただく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎月1度行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止を行い、虐待防止に努めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	契約時にやむを得ず拘束する場合の事例を説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	児童の契約段階で確認を必ず行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	重大な事故を防ぐために、日頃より、終礼で情報を共有している。	